

第 8 回日本がん・生殖医療学会 学術集会

P-54

東京、 2018.02.11

「大阪がん・生殖医療ネットワーク (OO-net)」の立ち上げ

井上朋子^{1,2}、大八木知史^{1,3}、筒井建紀^{1,3}、都築朋子^{1,4}、岡田英孝^{1,4}、森本義晴^{1,2}

大阪がん・生殖医療ネットワーク¹、HORAC グランフロント大阪クリニック²、地域医療機能推進機構大阪病院³、関西医科大学産婦人科⁴

【はじめに】

若年がん患者に対する生殖機能・妊孕性温存治療を提供するためには、医療技術の向上とともに、患者と医療機関、及び、がん治療施設と生殖医療施設をつなぐネットワークが不可欠である。いくつかの地域では、都道府県単位で医療連携がスムーズに機能するシステムを構築しているが、全国的には少数である。大阪府でも、新たなネットワークを立ち上げ、活動を開始してきたので報告する。

【経緯】

2016 年 11 月 大阪にがん・生殖医療を進めるためのネットワーク作りを提案

2017 年 2 月 第 1 回会議開催（参加者 22 名）

2017 年 4-5 月 大阪府内のがん治療診療拠点病院 64 病院 262 診療科（産婦人科・泌尿器科・乳腺外科・血液内科・小児科・小児外科）への妊孕性温存治療に関するアンケートを送付し集計

同時期に大阪府 ART 登録 42 施設に妊孕性温存治療の可否についてのアンケートを送付し集計

2017 年 5 月 第 2 回会議開催（参加者 29 名）

2017 年 9-11 月 大阪府 ART 登録 43 施設に治療内容の確認と情報公開に関するアンケートを送付し集計

2017 年 12 月 第 3 回会議・設立記念講演会開催（参加者 77 名）

2018 年 2 月 大阪がん・生殖医療ネットワークのホームページを開設予定

【大阪府の現状と今後の展望】

大阪府には 5 つの医科大学と数多くのがん治療施設があり、多くのがん診療医は妊孕性温存治療に関する説明を患者に行っており、潜在的には本治療への需要が高いと思われた。しかし、大学病院を除くと、患者もしくは医療者が外部の ART 施設を捜して受診している状

況であり、治療可能な施設に関する情報を求める意見が多かった。一方 ART 登録施設は現在 43 あり、ほとんどがプライベートクリニックの形態であった。調査の結果、大阪府内には生殖機能・妊孕性温存治療を実施している施設が 7 割以上あり、これらを適切に情報提供することが我々の目標である。

大阪府の事例が同様のネットワークをこれから設立する地域のモデルとなれば幸いである。